

# 令和元年度 学力向上プラン

深谷市立幡羅中学校

R  
分析

## 全国学力・学習状況調査より

- ・国語では、封筒の書き方など実生活での言語の適切な活用の仕方の理解が低い。
- ・数学では、無回答率が少なかった問題がほとんどであったが、記述問題の無回答率が他の問題に比べて高かった。
- ・英語では、「話すこと」に関して10%以上平均値より上回っている。一方、空所の語句補充が比較的弱い。

## 埼玉県学力・学習状況調査より

- ・国語では、自分の思いや考えを記述することが抵抗なく取り組んでいる。一方、適切な言語を使って文章を書く能力がやや低い。
- ・数学では、1年→2年の伸び率が高いが、2年→3年が伸び悩んでいる。
- ・英語では、「聞くこと」による内容把握は得意であるが、まとまりのある文章の内容を把握する力が弱い。

## NRT・NINOより

- ・偏差値55～64の段階の分布人数が多い。一方、アンダーアチーバーも少ない。



G  
ゴール

## 【令和4年度までの目標】

- 全国学力・学習状況調査の教科平均正答率において、全国・県平均+5%以上
- 県学力・学習状況調査の教科平均正答率において、県平均+5%以上
- NRT・NINOで偏差値53を上回る。
- 上位75%層を引き上げるための工夫・改善を行った授業実践
- 学習方略・非認知能力変化量+0.2以上

## 【来年度に向けての数値目標】

	伸びた児童の割合			県平均との差			学力レベル		
	H30	H31	R2	H30	H31	R2	H30	H31	R2
<b>国語</b>									
1年				-0.5	-0.2	3.0	7-A	8-C	8-C
2年	61.9	60.2	75.0	2.0	-0.3	3.0	8-B	8-B	8-A
3年	71.9	60.5	75.0	3.0	1.7	3.0	9-C	9-C	9-B
<b>数学</b>									
1年				-0.3	4.4	3.0	7-B	8-C	8-C
2年	70.5	87.3	85.0	5.5	8.0	5.0	8-B	9-C	9-C
3年	85.4	54.2	90.0	4.8	2.4	5.0	9-C	8-A	9-A
<b>英語</b>									
1年									
2年				2.5	-3.7	3.0	9-C	8-A	9-C
3年	90.0	80.2	90.0	1.4	1.7	3.0	10-B	10-C	10-B

【次年度に向けての重点計画】

- ・下位層を減らすために、全学年、各教科で共通した指導・支援を行う。また単元テスト等を行い基礎基本の定着を確認し、必要に応じて補充を行う。
- ・上位層を増やすために、発展課題プリントを用意し、取り組ませる。
- ・学力向上旬間で相互授業参観を行い、授業力を高める。また、研究協議を行い、校内のグッドプラクティスを分析・研修する。
- ・復習シートやコバトン問題集を、授業における課題設定や、定期テスト等で活用していく。

<b>8月</b>	校内研修 (各教科部会で本校の課題の分析・検証、全教職員で課題の共通理解)			
<b>9月</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な教科部会の開催</li> <li>・授業改善アンケートの実施</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けての授業改善</li> <li>・目標と振り返りを大切にした授業実践</li> </ul>	コバトン問題集・復習シートの問題を活用した授業ならびに定期テスト	学習ドリルを活用した朝学習の実施	グッドモデルを参考にした家庭学習への取組
<b>10月</b>				
<b>11月</b>	校内相互授業参観	コバトン問題集・復習シートの問題を活用した授業ならびに定期テスト	学習ドリルを活用した朝学習の実施	グッドモデルを参考にした家庭学習への取組
<b>12月</b>	教科部会(授業参観をしての協議)			
<b>1月</b>	学力向上旬間 学力向上校内研修 (実践・協議内容の発表)			
<b>2月</b>	学力向上研修 (校内のグッドプラクティスの分析・検証)	コバトン問題集・復習シートの問題を活用した授業ならびに定期テスト	学習ドリルを活用した朝学習の実施	グッドモデルを参考にした家庭学習への取組
<b>3月</b>	正答率が低かった問題を活用した授業を行う。			
<b>3月</b>	全学テの過去問を解く(2年生)			ステップアップレッスンの実施